

# J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



温かくなりました。春ですね。沈丁花の甘い香りで、生きることっていいなあと、忘れかけていた何かを思い出しました。「この気持ちは何だろう」（谷川俊太郎「春に」）。さて、今月は猪阪善隆先生からのメッセージをいただきました。



## 幹事からのメッセージ

### 「腎臓と老化」

大阪大学大学院 老年・腎臓内科学  
猪阪 善隆 先生

私の所属する教室は老年・腎臓内科学であるが、このような名称の講座は他には見当たらない。講座が開設された当初は、腎臓と老化は関係ないと思っていたのであるが、中医学では、「腎虚」とは「老化が進行していること」を指しており、昔から何らかの関係があると考えられていたようである。実際、老化と進行した慢性腎不全が極めて類似した表現型を示すことは、腎不全医療に携わる誰もが実感することである。また、老化抑制因子とされるKlothoが腎尿細管で発現していることは、これを裏付ける証左でもあるかもしれない。J-DAVID試験では、「ビタミンDが長寿ホルモンであるか」を検証することになるが、もし、これが確認できれば、我々の講座名は実に先見の明があったと言えるであろう。

さて、先日の大阪透析研究会で当研究室の濱野高行先生に「透析液のCa濃度を考える」というテ-

マで講演してもらった。濱野君の主張を一言でいうと、「低Ca濃度の透析液を用いて、適切にビタミンDを使用することが予後を改善する」とことである。この主張に異論のある先生もおられるであろうが、我々の研究室がCKD患者に行った観察研究でもビタミンDの有効性を確認しており、ビタミンDを有効に使用することは、単にCKD-MBDだけでなく、心血管合併症や感染症や免疫の観点からも生命予後に重要であると感じている。現在の透析医学会のCKD-MBDガイドラインのP, Caの治療管理法「9分割図」では、透析液のCa濃度は、治療を行ってもCa濃度異常が持続する場合に変更を考慮するとされており、その地位は低いようである。J-DAVID試験において、ビタミンDが長寿ホルモンとしての有効性が証明され、透析患者さんの生命予後を改善させるためにも、透析液のCa濃度とビタミンDの適切な治療管理が示されることを願いたいと思っている。



## 最近の文献から

### 日本人一般住民における血清1,25(OH)<sub>2</sub>D濃度と腎機能障害の発現

#### Serum 1,25-dihydroxyvitamin D and the development of kidney dysfunction in a Japanese community

Izumaru, K, et al. Circ J 78: 732-7, 2014

【ポイント】2417人の一般住民における5年間の観察コホート研究。血清1,25(OH)<sub>2</sub>D濃度がCKDステージ3-5発症を予測するかどうかをみた。血清1,25(OH)<sub>2</sub>D濃度高値（第4四分位）と比較し、低値（第1四分位）ではハザード比が1.90であり、10 pg/mLの低いとeGFRの年間低下率が0.1mL/min/1.72m<sup>2</sup>大きかった。

【詳しくは】<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/24351652>

### ビタミンDによる鉄調節因子ヘプシジン抑制

#### Suppression of iron-regulatory hepcidin by vitamin D.

Bacchetta, J, et al. J Am Soc Nephrol 25: 564-72, 2014

【ポイント】CKDにおける貧血とヘプシジン高値やビタミンD欠乏が関連している。本研究は肝細胞や単球の培養系に1,25(OH)<sub>2</sub>Dを添加して反応をみた。免疫に関与するカテリシジンは上昇したが、ヘプシジンは抑制、フェロポルチンは増加した。健康人にビタミンDを投与すると、血清ヘプシジン濃度が低下した。

【詳しくは】<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/24204002>

## 最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(3月27日現在)

## 症例報告書回収状況報告

	観察開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目
前月	976	932	923	834	796	750	649	455	301	220
今月 (前月比)	976	932 (-)	923 (-)	834 (-)	796 (-)	749 (-1)	659 (+10)	470 (+15)	311 (+10)	225 (+5)

## 内容確認書(クエリー)回収状況報告

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目	コンプライアンス	中止時	脱落基準	SAE (イベント含む)	総数
発行	1136	772	615	635	599	518	462	249	166	108	1247	149	23	168	6847
回収	1136	763	601	621	575	467	360	194	124	82	1175	141	23	144	6406
回収率 (%)	100.0	98.8	97.7	97.8	96.0	90.2	77.9	77.9	74.7	75.9	94.2	94.6	100.0	85.7	93.6

## J-DAVID事務局からのお知らせ

### 共同研究費(2013年分)のお振り込みが完了いたしました

「共同研究費 振込請求書(2013年分)」に基づき、共同研究費を3月26日にご指定の口座にお振り込みいたしました。



## J-DAVIDデータセンターからのお知らせ

### レターパック用の10円切手をお送りします

2014年4月1日よりレターパックの料金が10円値上がりします。料金不足分として10円切手10枚を症例登録のあるご施設の施設代表者様へ「J-DAVID news4月号」と同封してお送りいたしますのでご確認ください。ただし、SMOによる支援のあるご施設でご要望がある場合はSMO担当者様宛てにまとめてお送りしております。

4月1日以降、料金が不足しているレターパックをご使用される場合は、切手貼付の上ご投函ください。お手数をおかけいたしますがご対応の程宜しくお願いいたします。

今後、レターパックをお送りする場合は、新料金の「レターパックライト360」をお送りしますので切手貼付は不要です。余った切手は症例報告書ご郵送の際にでもご返却ください。



### 担当者の異動があればご連絡ください

年度末から年度初めにかけて、J-DAVIDご担当の先生が退職される、あるいは担当を外れる等何らかの異動が発生した場合は、データセンターまでその旨お知らせください。

編集・発行：J-DAVID研究会事務局  
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3  
大阪市立大学大学院医学研究科  
代謝内分秘病態内科学 内  
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808  
J-DAVID試験データセンター  
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

J-DAVIDのホームページ  
<http://j-david.info/>